



「 奉仕者が持つ影の苦しみ～勝利し、立ち直る力 」

| エレミヤ書講解-45 エレミヤ書 19:14-20:18他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 19、20章 】

- 7 「【主】よ。あなたが私を惑わしたので、 私はあなたに惑わされました。  
あなたは私をつかみ、思いのままにされました。 私は一日中笑いものとなり、  
皆が私を嘲ります。
- 8 私は、語るたびに大声を出して 『暴虐だ。暴行だ』と叫ばなければなりません。  
主のことばが、一日中、 私への嘲りのものとなり、笑いぐさとなるのです。
- 9 私が、『主のことばは宣べ伝えない。 もう御名によっては語らない』と思っても、  
主のことばは私の心のうちで、 骨の中に閉じ込められて、 燃えさかる火のようになり、  
私は内にしまっておくのに耐えられません。 もうできません。
- 10 私が、多くの人のささやきを聞いたからです。 『「恐怖が取り囲んでいる」と告げよ。  
われわれも彼に告げたいのだ』と。 私の親しい者もみな、 私がつまずくのを待ちかまえて  
います。 『たぶん彼は惑わされるから、 われわれは彼に勝って、 復讐できるだろう』と。
- 11 しかし、【主】は私とともにいて、 荒々しい勇士のようです。 ですから、私を迫害する  
者たちはつまずき、 勝つことができません。 彼らは成功しないので、大いに恥をかき、  
忘れられることのない永久の恥となります。
- 12 正しい者を試し、 思いと心を見る万軍の【主】よ。 あなたが彼らに復讐するのを  
私に見させてください。 私の訴えをあなたに打ち明けたのですから。」
- 13 【主】に向かって歌い、【主】をほめたたえよ。 主が貧しい者のいのちを、  
悪を行う者どもの手から救い出されたからだ。
- 14 「私の生まれた日は、のろわれよ。 母が私を産んだその日は、 祝福されるな。  
15 のろわれよ。 私の父に、『男の子が生まれた』と知らせて、 大いに喜ばせた人は。  
16 その人は、【主】があわれみもなく打ち倒す 町々のようになれ。  
朝には彼に悲鳴を聞かせ、 真昼には、ときの声を聞かせよ。
- 17 彼は、私が胎内にいるときに私を殺さず、 母を私の墓とせず、 その胎を、永久に  
身ごもったままにできなかったからだ。
- 18 なぜ、私は労苦と悲しみにあうために 胎を出たのか。 私の一生は恥のうちに終わる  
のか。」
- 【 哀歌 】
- 2:20 「【主】よ、よくご覧ください。 だれにこのような仕打ちをなさったのかを。  
女たちが、自分の胎の実を、 養い育てた幼子を食べてよいでしょうか。  
祭司や預言者が、 主の聖所で虐殺されてよいでしょうか。

- 14 そこでエレミヤは、【主】が預言のために遣わしたトフェトから帰って、  
【主】の宮の庭に立ち、民全体に言った。
- 15 「イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。見よ。わたしはこの都とすべて  
の町に、わたしが告げたすべてのわざわいをもたらす。彼らがうなじを固くする者  
となって、わたしのことばに聞き従おうとしなかったからである。」
- 1 さて、主の宮のつかさ、また監督者である、イメルの子、祭司パシュフルは、  
エレミヤがこれらのことばを預言するのを聞いた。
- 2 パシュフルは、預言者エレミヤを打ち、彼を【主】の宮にある、上のベニヤミンの門  
にある足かせにつないだ。
- 3 翌日になって、パシュフルがエレミヤを足かせから解いたとき、エレミヤは彼に  
言った。「【主】はあなたの名をパシュフルではなく、『恐怖が取り囲んでいる』と  
呼ばれる。
- 4 まことに主はこう言われる。見よ。わたしはあなたを、あなた自身とあなたの愛する  
すべての者にとって恐怖とする。彼らは、あなたが見ている前で、敵の剣に倒れる。
- 5 また、わたしはユダの人すべてをバビロンの王の手に渡す。彼は彼らをバビロンへ  
引いて行き、剣で打ち殺す。また、わたしはこの都のすべての富と、すべての労苦  
の実と、すべての宝を渡し、ユダの王たちの財宝を敵の手に渡す。彼らはそれを  
かすめ奪い、略奪してバビロンへ運ぶ。
- 6 パシュフルよ。あなたとあなたの家に住むすべての者は、捕らわれの身となって  
バビロンに行き、そこで死んで、そこに葬られる。あなたも、あなたが偽って預言  
を語り聞かせた、あなたの愛するすべての者たちも。」 (4ページへ続く)

## ◆ はじめに

### | 前回の文脈

#### 1. エレミヤへの象徴的なメッセージ

(1) 焼き物の器を買って、民の代表の前でそれを割り、メッセージする。

- ① さばきの理由は偶像礼拝：ヒノムの谷における人身御供。
- ② さばきの内容は捕囚と殺害と貧困。ささげた子たちの肉を食うこと。

◆補足① 哀2：20、4：10 \*参照 レビ26：27～29、申28：53～57

◆補足② 苦難の中にある同胞を放っておけない性質でも、避けられない醜態。

(2) 選びの器が極めてかたくなで、復元出来ない程に砕かれることを教える。

#### 2. 今日のテーマ：預言者エレミヤの人となり～神が共におられること

#### ◆ エレミヤ書のアウトライン (全7点)

- ① ヨシヤの統治下で預言者としての召し (1章)
- ② ゼデキヤ統治以前の預言 (2～20章)
- ③ ゼデキヤ統治下での預言 (21～29章)
- ④ 12部族の将来 (30～39章)
- ⑤ エルサレム崩壊後もそこに留まる者へ (40～42章)
- ⑥ エジプトで語られた周辺諸国への言葉 (43～51章)
- ⑦ エルサレム崩壊の預言の成就 (52章)



## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 主が共にいてくださるから

\*このメッセージは、私たちの霊的状況にかかわらず注がれる神の愛を学ぶものである。

## I 命令の実行～焼き物の瓶を割って語る (1～2節)

### 1. 神殿の宮でのメッセージ

- (1) トフェトから帰って、主の命令 (～13節) を実行する。
- (2) 神の御名による批判的なメッセージ：非常に勇気のいる、命がけの行為
  - ① 真の礼拝の中心地、主の宮で神のことばを語った。
  - ② 「神が語る」絶対的権威：イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。

### 2. メッセージの拒否～パシュフルによる逮捕

- (1) 宮のつかさ、監督者であるイメルの子。祭司で神殿警備の長官 (29：26)
  - ① 資格の無い者が教えること、律法とは異なる教えを取り締まる役目。
  - ② エレミヤを逮捕する：主の宮の宗教儀式、また仕える祭司たちも憐れだった。
- (2) 彼は預言者としても活動していた (内容はにせ預言者) 参照 14：14以下  
\* 預言者を専門とする者もいたが、祭司、士師、王などと兼任可能であった。
- (3) エレミヤの扱い：パシュフルはむちで打ち、預言を押しとどめようとした。
  - ① 40回のむち (パウロの時代には39回になっていた) と足かせの刑。
  - ② 登朝、思い直してエレミヤを解放した (懐柔する狙い?)

\* 真の預言者エレミヤは、この程度では黙らなかつた。

## II パシュフルへのさばきの預言 (3～6節)

### 1. 新しい名を与える (3節)

① パシュフルに新しい名の付与：「恐れが周りにある」という意味

\* 3節後半「だれでもそのことを聞く者は、両耳が鳴る。」

### 2. にせ預言者が伝える真の恐怖

① 彼自身と周りにいるすべての人が恐怖を感じるようになる。

② 彼のにせ預言に従ったすべての人が、捕囚にひかれて行く。

\* にせ預言者の彼が、民に真の恐怖を伝える器となる皮肉がある。

\* やがて、捕囚に伴い彼の周囲の人々がすべて死んで葬られる (哀2：20)

③ バビロン王という名が初めて登場し、捕囚は3度行われた。(アッシリヤ捕囚と同様)

\* 第一波：前605年、第二波：前597年 (エホヤキンが捕囚)、第三波：前586年

## III 勝利、そして落胆の祈り～エレミヤの人となり (7～18節)

### 1. エレミヤの落胆 (7～10節)：さばきを語る苦しみと使命感との葛藤

(1) 神の召しに対して、私の意志でなく、反抗できないから従ったと訴える。

(2) 「恐れが回りにある」：主が付けた名は、エレミヤに周囲が付けたあだ名と同じ。

### 2. 対照的な勝利の祈り (11～13節)：「主が私と共にあって」

(1) 主の預言は必ず成就し、主の敵は必ず恥を見る。賛美と信仰の告白。

### 3. 再び落胆 (14～18節)：生まれた日を呪う祈り \*参照 15：5～14

(1) 高みを経験した後の落ち込み \*ヨブも同様の祈り (ヨブ3章)

① 考え得る限り、預言者の苦痛や不安をぶつけた。単なる神への反抗ではない。

(2) エレミヤも完全無欠ではなく、生身の人間である。

① エレミヤがどのような状況でも、神はその思いをしっかり受け止めた。

② 神の存在は、人間の主観ではなく、それを超えた普遍的、絶対的存在である。

\* 母の胎の中のエレミヤを召し (1：4) は、確信の原動力であった。

③ いつの時代も、指導者が人知れず持つ苦しみを理解し、援助する祈りが必要。

## ◆ まとめ：主が共にいてくださるから

### 1. イエスとエレミヤの比較～受難・勝利・御父の存在

(1) 弟子たちはイエスは受難の預言者エレミヤの再来と理解していた。

(2) グッセマネの祈りで、イエスは十字架を決心して、恐れから勝利した。

(3) 奉仕者が苦難や悲しみの中にいる時も、父はいつも共におられた。

### 2. 主観に左右されず、共にいてくださる神をいつも賛美したい。

(1) 神の愛と恵みのわざを理解し、いつも感謝できるように・・・

\* 神の御心が最善であり、信者にとって第一に求めるべきものである。